



# 図書展示室

神奈川県立小田原高等学校





2019年5月12日(日)、南館3階の教材展示室の隣に「図書展示室」を開設しました。旧制神奈川県立第二中学校・小田原中学校の蔵書をご紹介します。和漢書が2,216冊、洋装本が約2万冊あり、教師の教授用参考書や生徒の学習図書として使用されました。

和漢書は国語、漢文、地理、歴史、美術、書道の基本図書をよく揃え、「神奈川県立第二中学校」の蔵書印がある本が多数あり、吉田庫三初代校長が収集を始めたことがうかがえます。『漢書評林』をはじめとする江戸前期(1603~1715年)の刊行本358冊、『大和物語』の古活字本2冊、曾我部容所の書入本と思われる宋の『文則』1冊など、貴重書もあります。『報徳記』といった二宮尊徳関係書22冊、そして小田原藩家老で藩校「集成館」学頭大久保楚南の子孫・大久保鑑二が寄贈した『鎮将府日誌』などの伊藤博文蔵書17冊は、小田原の地で中等教育が営まれたことを物語っています。

洋装本は各教科の図書が揃っており、特に百科事典、国史、東洋史、西洋史、地理、数学、物理学、化学、博物学、国文学、漢文学、英文学が豊富です。「神奈川県立第二中学校」の蔵書印がある本は202冊あります。「神奈川県立第二中学校寄宿舎」「神奈川県立小田原中学校寄宿舎」「神奈川県立小田原中学校校友会」の蔵書印がある本、「神奈川県立小田原中学校報国団」の書入がある本、「開校十年記念品」の墨書がある本などは、校史の観点から貴重です。また、ブリタニカ百科事典第9版(1875~1889年)、マイヤー百科事典(1902年)、坪内逍遙翻訳のシェイクスピア全集、北原白秋の弟・北原鉄雄が大正6年に創業したアルス出版社の本なども貴重です。

これらの和漢書と洋装本は、明治末の二度の火災、関東大震災、戦災、校舎改築など、度重なる災難を乗り越え、奇蹟的に今日まで受け継がれてきました。これだけの旧制中学の蔵書がまとまって存在することは、県内に例がなく、全国でも屈指です。明治、大正、昭和戦前・戦中期の中等教育を知る上で貴重であり、近代中等教育の「歴史的教材」として価値が高いと考えられます。